

令和5年度「メディカル・キャンプ・セミナー」レポート

令和5年8月8日（火）、9日（水）、医学部への進学を目指す高校2年生を対象に、「メディカル・キャンプ・セミナー」を開催しました。本セミナーは北海道大学、旭川医科大学、札幌医科大学の協力のもと、参加生徒をオンラインでつないで実施しています。

今年度は、道立高校のほか、市町村立高校や私立高校を含む105名の高校生が参加し、大学教授による特別講義、道立高校教諭による数学・英語の講義、現役の医学部生の協力を得て行うグループワークなどに取り組みました。

今回のセミナーでは、初の試みとして、セミナー当日の意見交換が充実するよう、参加生徒が事前に地域医療についての理解を深めるための事前交流会を行いました。

参加生徒は、事前交流会を踏まえて活発な意見交換を行ったことにより、地域医療の現状や課題を再認識するとともに、将来、自分が医師として社会に貢献するために、今後の学校生活を通じて、具体的に何をすべきか、考えを深めていました。

事前交流会＜7月26日（水）開催＞

参加生徒が事前に取り組んだ地域医療に関する課題について発表し、質疑応答を通じて参加者同士が交流する事前交流会を行いました。事前交流会は、旭川医科大学の医学部生の協力を得て行い、参加生徒が発表した内容に対して、医学部生から、セミナー当日までにさらに深く考えてほしいことなどについて、コメントをいただきました。

【医学部生からのコメント】

- ・医療現場での最新技術の活用については、メリットとともに、デメリットも考えてみてほしい。
- ・医師不足といっても地域によって状況が異なることから、人口当たりの医師数など、様々なデータや視点を踏まえて医師不足について考えられるとよい。
- ・社会が取り組むべき課題の解決に向け、高校生としてどのような活動ができるのかを考えてみてほしい。

令和5年度メディカル・キャンプ・セミナー事前学習ワークシート

関心のある地域医療に関する新聞記事等

新聞記事等に関心を持った理由や、それに対する自分の考え

AI問診 活用広がる
タブレット活用「紙より便利」

医師 負担軽減
患者 時間短縮

スマホで入力 簡単！

【記事に関して興味を持った理由】
最近の生成AIの普及からAIがどのように医療と関係していくか強い関心を抱いたから。また病院内にとどまらずネット上で無料かつ家で無料でAI問診できる点は凄いなと思ったから。

【自分の考え】
このAI問診システムは問診にかかる時間を一気に短縮できるため、過労と言われる医師の仕事の負担を軽減することができ地域医療にも医療の質の向上にも貢献すると思われる。今後、ますますAIなどによる最新技術によって従来の医療が大幅に変わり医師の新しい働き方が要求されると思う。例えば遠隔手術とかロボットによる調剤、介護ロボットなど時間が経つにつれて開発されるためAIにはできない人間にできる仕事をますます求められるだろう。もしかするとAIによって誰もが平等に医療を受けられる時代が来るのかもしれない。

参加生徒が関心を持った地域医療に関する新聞記事等をまとめたワークシート

【参加生徒の感想】

- ・地域医療に関する知識がほとんどなかったので、事前学習によって、北海道の地域医療の現状や課題解決に向けた改善策、医師確保の対策など、様々な知識を得ることができました。
- ・参加した人たちがそれぞれ違った話題を挙げていたことが興味深かったです。また、グループ交流では、積極的に意見交換を行い、自分の視野が広がりました。
- ・医学部生が自分の発表に対してアドバイスをしてくださったので、地域医療に対する理解が深まりました。

特別講義 <8月8日(火)>

「医師ってどんな仕事？」

北海道大学大学院医学研究院医学教育・国際交流推進センター 高橋 誠 教授

医師の仕事について実際の手術の映像をもとに説明していただいたほか、医学部のカリキュラムや高橋先生が現在の職に就くまでの経緯、これからの医師に求められる資質・能力について講義していただき、参加生徒は、医師の仕事の内容などについて理解を深めました。



北海道大学 高橋先生の講義の様子

【参加生徒の感想】

- ・ 医師の国家試験に関するクイズで楽しく学んだ後に、医師として必要な能力のことや、高橋先生がどうして医師になったのかなど、いろいろな話を聞くことができ、大変有意義でした。実際の手術の映像も、高橋先生が丁寧に解説してくださったので興味深かったです。
- ・ 現役の医師の声を聞く機会が少ないので、とても貴重な経験になりました。医師から見る医療の現状と課題、未来の医療とはどのようなものかを学ぶことができました。
- ・ 医師になるとはどういうことか、医学部を目指すとはどういうことかを再認識することができました。
- ・ 高橋先生ご自身の経験から医師になるまでの流れや、倫理観について講義をしていただき、とても勉強になりました。特に、倫理観について深く考える機会となりました。

説明 <8月8日(火)>

「本道の医師確保対策について」

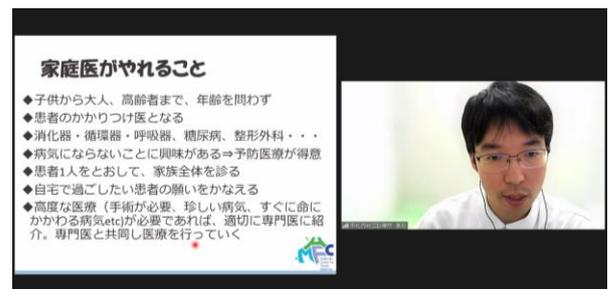
北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課医師確保係 小林 壮平 係長
中札内村立診療所 高石 恵一 所長

道保健福祉部の小林係長からは、北海道の医師数や、二次医療圏別医師偏在指数などのデータに基づいた北海道の地域医療の現状、本道の医師確保策である「北海道医師養成確保修学資金貸付制度（地域枠制度）」など、北海道の取組を説明していただきました。

また、中札内村立診療所で医師として勤務されている高石先生から、地域医療に携わることのやりがいや魅力についてお話いただきました。高石先生は、札幌医科大学に地域枠で入学した1期生として、道内の様々な地域で勤務しており、その経験から、医師の後輩になり得る参加生徒に対し、熱いメッセージを送っていただきました。



道保健福祉部 小林係長の説明の様子



中札内村立診療所 高石先生の講演の様子

【参加生徒の感想】

- ・今の北海道の医療の現状や、医師確保対策などを実際のデータとともに詳しく説明していただいたので、地域医療についての理解が深まりました。
- ・北海道の医師不足について、本州との比較や医師の偏在の状況などから理解することができました。また、高石先生の話から、総合診療医がどういうものかが分かり、総合診療医の魅力を知ることができました。
- ・高石先生のお話を聞いて、医師の仕事が、責任感が大きいがいやりがいがある仕事であるということが分かりました。
- ・町医者へのイメージが大きく変わりました。高石先生の「カルテの裏側を見られる医師になることが大切」という考え方がとても印象に残りました。

グループワークⅠ <8月8日(火)>

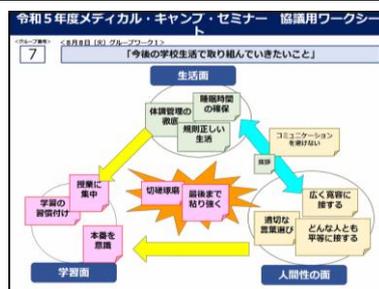
「大学での学びの抱負」、「医療を通して実現したいこと」

札幌医科大学医学部医学科麻酔科学講座 澤田 敦史 講師

札幌医科大学の学生がサポート役となり、参加生徒は、大学で学びたいことなどについて、自分の考えを発表し、グループで意見交流を行いました。

その後、交流の内容を踏まえ、今後の学校生活で取り組みたいことについて、学習面、生活面、人間性の面から協議して考えを整理し、スライド資料にまとめました。

最後に、澤田先生から、今後の学校生活で期待することなどについて助言していただき、参加生徒は、学校生活で取り組むべきことを明確にしていました。



参加生徒がグループワークで作成したスライド資料



札幌医科大学 澤田先生の助言の様子

【参加生徒の感想】

- ・グループワークの中で、患者さんとの接し方やコミュニケーションが重要であるという意見が多かったのが印象的でした。今からできること、今やっておくべきことがたくさんあるということが分かりました。
- ・澤田先生や医学部生が、北海道医療の課題や魅力を詳しく教えてくださったので、改めて地域医療の現状について考えることができました。また、グループワークでの意見交流から、どんなことに対しても目的意識を持って取り組むことはとても大切だと実感できました。
- ・医師になるという同じ目標を持った高校生と話すことで、自分の目指すところが明確になりました。また、医学部生の方が質問に丁寧に答えてくださってとても参考になりました。
- ・大学で学びたいこと、そして学んだことをどのように社会に生かすべきかについて、考えを深めたり、明確にしたりすることができました。

講義（数学・英語）＜8月9日（水）＞

数学：札幌啓成高校 大島 寿美 教諭

英語：札幌南高校 柴田 雅裕 教諭、釧路湖陵高校 西川 由紀恵 教諭

数学の講義では、札幌啓成高校の大島先生から、医学部入試で求められる学力を身に付けるための学習法や、数学において定義を重視して、本質的な理解を追究することが大切であることについてアドバイスいただきました。

英語の講義は、2つのグループに分かれて行い、札幌南高校の柴田先生からは、模擬試験や過去の入試問題の活用方法など、受験勉強の方法についての説明のほか、ライティングの演習を行い、英作文のポイントなどについてアドバイスいただきました。

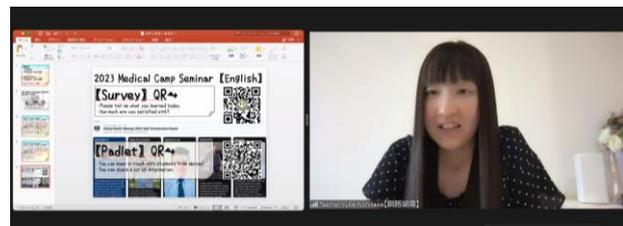
また、釧路湖陵高校の西川先生の講義では、海外の方とオンラインでつなぎ、医療従事者にとって英語が求められる理由などについて、参加生徒が自分の意見を英語で伝えるグループ交流を行いました。参加生徒は、英語を学ぶことの大切さについて理解を深めました。



札幌啓成高校 大島先生の講義の様子



札幌南高校 柴田先生の講義の様子



釧路湖陵高校 西川先生の講義の様子

【参加生徒の感想】

＜数学（大島先生）＞

- ・私は数学が苦手ですが、教科書を暗記したり証明を覚えたりするのではなく、数学では、定義を理解した上で自分の言葉で表現することが大切だと学ぶことができました。
- ・計算ミスを克服するためのポイントなど、事前に質問した内容にも丁寧に答えてくださって、とても参考になりました。
- ・大学入試や模擬試験に向けた学習方法について、具体的に分かりやすく教えてくださったのでとてもためになりました。

＜英語（柴田先生）＞

- ・英語だけでなく、その他の教科の学習方法や受験に対する心構えなど、学校の授業ではなかなか聞くことができない話をたくさん聞くことができ、大変有意義でした。
- ・大学受験のための英語の勉強方法や、日ごろの授業の大切さなどをお話していただき、勉強することに対するモチベーションが高まりました。
- ・英作文の型やポイントを教えていただき、とても勉強になりました。

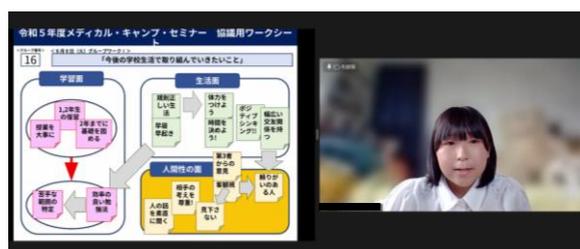
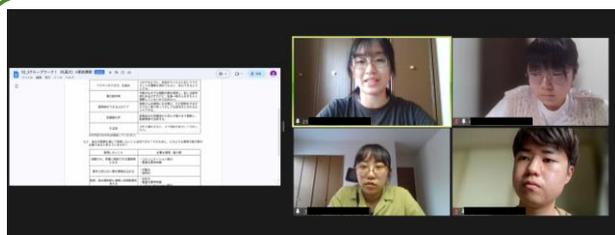
＜英語（西川先生）＞

- ・英語の勉強では、アウトプットすることが大切であることを学びました。実際に海外の方々と交流させていただき、もっと英語を話せるようになりたいという思いが生まれました。
- ・医師を目指す世界中の人たちと英語で意見交流ができてよかったです。それぞれの国の考え方の違いなども興味深かったです。
- ・海外の方々に対し、自分が医師になりたい思いを英語で述べ、意見交流したことにより、自分の視野を広げることができました。

【本セミナー全体を通じての参加生徒の感想】

- ・ 普段はここまで深く医療について考えることがなかったので、様々な講義を受けたり、同じ医学部を目指す仲間と意見を交流したりすることができたので、とてもためになりました。また、医師を目指すモチベーションを高めることができ、医学部合格に向けて一生懸命頑張ろうと思いました。本当にありがとうございました。
- ・ 医師の仕事の内容や地域医療の問題点、医学部受験の勉強法、北海道の医療体制など、たくさんの学びがありました。これまで、なぜ医師になりたいのか、地域医療の問題点は何かなど、真剣に考えたことがなかったため、自分の中で考えを整理するよい機会になりました。グループワークでは楽しく意見交流ができました。
- ・ 今回のセミナーを通して、参加生徒や医学部生の方とたくさん交流することができ、今自分は何をすべきなのかが明確になりました。また、地域医療について仲間と話すことで知識がより深まり、将来、自分も地方の医療を助けたいという思いが高まりました。とても有意義な時間でした。
- ・ 同じ志を持っている仲間とたくさん交流ができてとても刺激を受けました。医学部生の方々も、とても優しく私たちの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりして、これからの高校生活をどう過ごしていけばよいかという方向性が明確になりました。夢の実現のために、これからも頑張っていこうと思うことができました。ありがとうございました。

参加生徒の取組の様子



- ◇協力 国立大学法人北海道大学
国立大学法人旭川医科大学
北海道公立大学法人札幌医科大学
- ◇主催 北海道教育委員会（北海道教育庁学校教育局高校教育課）